

厚生労働省科学研究費補助金 2021-2022年度（大西班）
“放射線療法の提供体制構築に資する研究”

遠隔放射線治療のあり方

(令和4年度 大西班第2回全体会議 <進捗報告>)

分担研究者：藤齋 正英

1

研究の目的

- 遠隔放射線治療計画が様々な場面で活用されはじめています。
 - ガイドラインや診療報酬も整備されている。
- 一方で、遠隔放射線治療計画の利用実態に関する国内調査はこれまでに実施されていない。
 - 不透明な部分が多い。
- 本研究では、我が国の遠隔放射線治療計画の実態を明らかにし、今後の遠隔放射線治療計画のあり方を提言する。

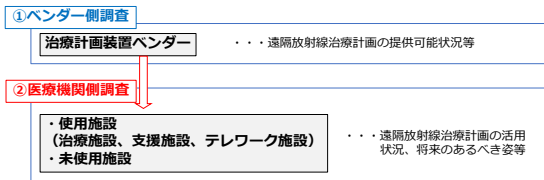
遠隔放射線治療計画のあり方 調査②2022年8月31日大西班会議

2

2

研究の概要①

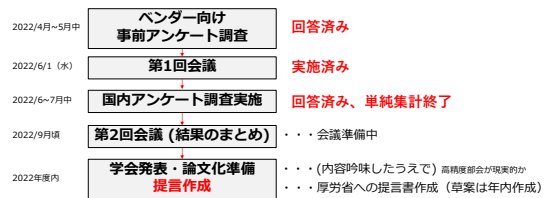
・研究期間内に、アンケート調査を**2回実施**する予定



遠隔放射線治療計画のあり方 調査②2022年8月31日大西班会議

3

研究の概要② ～研究フロー、進捗状況～

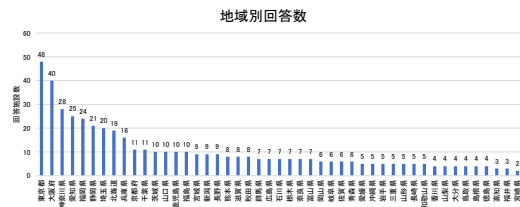


遠隔放射線治療計画のあり方 調査②2022年8月31日大西班会議

4

回答数（地域別）

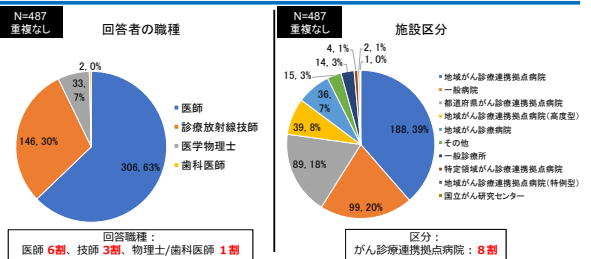
・**487施設/834施設**※ (回答率：**58.4%**) ※月別別医師より（ユニーク保持施設）



遠隔放射線治療計画のあり方 調査②2022年8月31日大西班会議

5

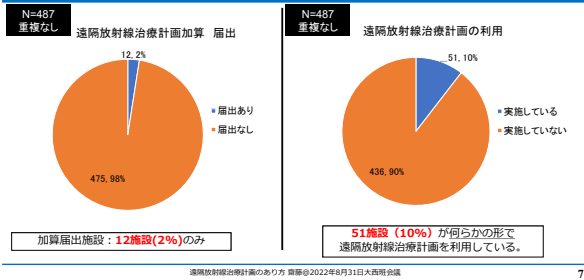
回答数（回答者職種、施設区分）



遠隔放射線治療計画のあり方 調査②2022年8月31日大西班会議

6

遠隔放射線治療計画の国内利用状況①



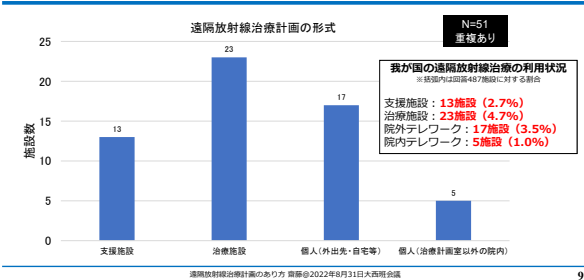
7

遠隔放射線治療計画の利用区分

- ① 支援施設
 - ◆ 放射線治療を支援する施設
 - ② 治療施設
 - ◆ 放射線腫瘍医等が不足している放射線治療を行う施設
 - ③ 院外テレワーク（個人（外出先・自宅等））
 - ◆ 院外において、自宅や外出先において遠隔放射線治療計画を実施する者
 - ④ 院内テレワーク（個人（治療計画室外の院内））
 - ◆ 院内において、治療計画室とは別室で遠隔放射線治療計画を実施する者
- 遠隔放射線治療計画のあり方 調査②2022年8月31日大西用会議

8

遠隔放射線治療計画の国内利用状況②



9

結果のまとめ

- 遠隔放射線治療の利用実態に関して、全国施設を対象とする初のアンケートを実施した。
 - 回答率：58.4%
 - 遠隔放射線治療計画加算の届け出施設：2% (12施設)
 - 遠隔放射線治療の利用状況
 - ◆ 支援施設：2.7% (13施設)
 - ◆ 治療施設：4.7% (23施設)
 - ◆ 院外テレワーク：3.5% (17施設)
 - ◆ 院内テレワーク：1.0% (5施設)
 - 国内の利用状況は予想以上に少なかった。
 - ✓ 一方で、遠隔放射線治療計画を導入したいと回答した施設は全体の約40%、わからないと回答した施設も約40%存在していた。
 - ✓ 遠隔放射線治療を適切に利用するために、導入のメリットや導入時の課題について周知・整理し、障壁となっている部分については政治的主導も必要である可能性がある。
- 遠隔放射線治療計画のあり方 調査④2022年8月31日大西用会議

10

今後の予定

- 単純集計は終了済み。
 - 今後詳細な解析を実施し、ワーキンググループ内で結果を共有し、適切な遠隔放射線治療のあり方について議論する。
 - 使用時の責任所在、費用配分、報酬、セキュリティ、需要等
-
- 来月中にワーキンググループ会議を実施し、提言案を作成する。
 - 同時に、回答者への情報共有のための学会発表・論文も予定
- 遠隔放射線治療計画のあり方 調査⑤2022年8月31日大西用会議

11